

# 讀賣新聞

2009年(平成21年)

2月21日土曜日

## THE 青森暮らし



山田スイッチさん 1976年生まれ。平川市在住のコラムニスト。秋田生まれの弘前育ち。「児の母。インターネットで日記風コラム「山田スイッチの言い得て妙」を公開中。

美味しいジュースの発掘に余念のない私が、もしも「最高の一本」と言われたら、弘前大学農学生命科学部の准教授である、城田安幸先生が開発した「医果同源」というリンゴジュースをお勧めしたいと思っているのです。

城田先生は弘前大学のホームページで、「ゴキブリと人間、進化しているのはどちら?」と問いかけるようなが。彼の開発した無農薬の未熟リンゴと低農薬の成熟リンゴをブレンドしたリンゴジュースは、相当美味しいのです。リンゴの未熟果実入りのこのジュースは、弘前の宝と呼んでいいほど大切な味がして、飲むと疲れがスーっと飛んでいくのを感じます。

1本160ミリ・46入りで

### 弘前の宝



イラストも本人

## 未熟リンゴのジュース

350円で販売されているのですが、健康面で様々なテレビ番組に取り上げられ、今や不況知らずの売れ行きです。開発者の城田先生は子供の頃、大の昆虫少年でした。

昆虫好きは今も変わらず、目玉模様のカイコを作る研究をし（普通のカイコには目玉模様がない）、大きな目玉模様を鳥は嫌うという研究結果からなんと、今では日本全国の畑に拡がる、鳥除けの「目

虫夏草よりガン予防効果が優れていたからだといいます。冬虫夏草よりガン予防効果が優れていたからだといいます。

ヒトの体内にできたガン細胞を一番最初に攻撃するナチュラルキラー細胞は、ストレスで減り、笑うと何%か増えという、なんとも不思議な細胞です。

城田先生の開発した未熟果実入りのジュースを5週間続けて飲むと、その細胞の活性が10数%上がる事が、30人以上を対象にした研究で明らかになりました。

未熟リンゴには成熟リンゴの5~10倍のポリフェノールが含まれているといいます。

「玉かかし」を開発された方なのでした！

その昆虫好きの城田先生が何故、リンゴに注目したのか

というと。ある時、冬虫夏草の研究をしていた先生が、ガムの予防効果をリンゴと比較した時に。明らかに比べた時に。明らかに

冬虫夏草よりガン予防効果が優れていたからだといいます。

しかし、城田先生のリンゴ園では、無農薬でリンゴを育て、そのモモシンクイガが卵を産み付ける前に、収穫してしまうのです。

農薬をかけない畑は、虫たちのパラダイス。

不況の中、何故このリンゴジュースが人々に求められるのかを考えると。答えはこのジュースの味わいにあると私は感じているのです。

友達が風邪を引いた時に医果同源を持ってお見舞いにいたら、「風邪の時、おかあさんがすりおろしてくれたりリンゴと同じ味がする」と言われ、ハッとしたました。

そんな、大切な味のするジュースだから。

弘前の宝と私は呼びたいのです。

ただし、使用する未熟リンゴは無農薬のものでないといけないそうです。

農家が農薬をかけるにはそれなりの理由がある。リンゴにはモモシンクイガという蛾が卵を産み付けにくるので、その除虫のために農薬はかけられます。

しかし、城田先生のリンゴ園では、無農薬でリンゴを育て、そのモモシンクイガが卵を産み付ける前に、収穫してしまうのです。

農薬をかけない畑は、虫たちのパラダイス。